

「こんにちは！知事です（宇和島地方局）」

日 時 平成16年9月4日（土）10:00～12:00

場 所 御荘町文化センター（御荘町）

知事との意見交換にご参加いただいた方々

	市町村	氏 名		市町村	氏 名
1	内海村	小島まり子	10	城辺町	松本 時子
2	御荘町	小野山眞弘	11	〃	宮田 吉弘
3	〃	清水 陽三	12	一本松町	池田 一成
4	〃	土居 慶子	13	〃	石河明日香
5	〃	中尾ワキ子	14	〃	山口 高司
6	〃	永元 義秋	15	西海町	三好栄美子
7	城辺町	高橋 和枝	16	〃	小田原大造
8	〃	土居 由美	17	〃	流水 陽子
9	〃	浜本 恵子			

意見交換の概要

児童虐待、凶悪犯罪への対応

児童虐待、凶悪犯罪など痛ましい事件が続いている。県から関係機関への指導をお願いする。

(知事)

人間は何のために生きているのか、家庭で、社会で、学校で、あらゆる機会です。失った心を取り戻す様々な全国的な取り組みが必要である。決め手はないが、熱心に真剣に取り組んでいく事柄であると認識している。

農業支援センターの事業費補助

南宇和地区で、平成 17 年 4 月に農業支援センターを立ち上げる。県では地域マネジメントセンターと言っている。ワンフロアで関係機関が迅速に対応するので、農家にとってありがたい組織である。関係機関の垣根を取り払い、農家のためになる支援センターになるよう指導してほしい。モデル地区としてスタートするので、暫くの間、事業費の補助をお願いする。

(知事)

要望として承る。いい形で、県内の先進的なモデルとして成長していく支援を県として可能な限り考える。

[対応]

県では、市町・農協などの関係機関がワンフロアで連携し、農地の利用調整や担い手の確保育成等が効率的、効果的に発揮できるよう支援している。また、農林水産省では、設立後も機能を効果的に実施するため、平成 17 年度予算に担い手総合支援事業としての活動助成費を計上している。

蓮乗寺川の浄化

蓮乗寺川に生活排水が流れて、汚れがひどい。町職員等が清掃活動に取り組んでいるが、きれいにならない。生活排水の流れる川をきれいな川に整備してほしい。

(知事)

工業技術センターが開発した微生物(えひめ AI-1)を使った水質浄化に力を入れており、食品加工工場の排水処理などに成功している。今問題になっているのは、家庭の雑排水である。住民全体が対応しないと川はきれいにならない。努力したい。

商店街への駐車場整備

商店街に、ボランティア活動の事務所とコミュニティ活動ができるプラザ城辺ができたが、駐車場がない。町にも要望している。県、町の力を借りて、空き地を借りてでも駐車場を作りたい。

(知事)

商店街が持ちこたえるためには、駐車場整備が必要である。空き地の駐車場利用など行政が関与してでも駐車場の整備をすべきであると思う。地域の商店街の周辺に駐車場があることが、商店街生き残りの絶対条件である。

[対応]

商店街への駐車場整備は、国の「商業基盤等施設整備事業」及び県単独の「がんばる商店街支援事業」で実施可能であり、ご要望があれば支援を検討するので、市町を通じて地方局商工労政課にご相談いただきたい。

プラザ城辺の運営

平成 16 年 8 月 1 日に商店街の空き店舗を使用してボランティアセンター的な役割のプラザ城辺を立ち上げた。商店街を車が横行しているため危険なので、いろんな人が安心して歩ける空間をどうやって作ったらいいのか教えてほしい。

オープンヶ月でいろんな方が利用している。町の支援でやっとできたものであるが、自主運営しており、町の支援に頼ってばかりいられないので、活動資金を維持していく方法を教えてほしい。

(知事)

この地域をどうするのかというビジョンがあり、そのための整備をどうしていくのか、行政が大きく関わらなければならない分野である。様々な条件の範囲内で何ができるのか、地域計画のビジョンづくりが大切な問題である。

活動資金の問題は、事務的に検討し、何か連絡したい。

[対応]

NPO やボランティア団体に対する支援は、「愛媛県 NPO 支援センター」(松山市道後北代 3-3 TEL089-925-1113) が行っている。

県では NPO やボランティア団体に対し、「愛と心のネットワークモデル事業」として、住民同士の助け合いや支え合いの活動の立ち上げに必要な経費の一部を助成している。

柑橘類のブランド化

10 年以上前から甘夏にかげりが見えたので、組合ではポンカンを導入した。「美生柑(みしょうかん)」に続いてブランド品にしていくため、「愛愛柑」というネーミングをいただいた。現在は名前が先行しているが、これからも、県からいいアイデアを農家に教えてほしい。

(知事)

愛愛柑の成功おめでとうございます。最近はブランド志向で消費性向が流れており、特に、柑橘類は嗜好が多様化している。県も可能な限り、知恵、工夫、アイデアを出せるようがんばりたい。

農業改良普及センター御荘普及室の存続

農業を取り巻く環境は非常に厳しい。地球温暖化により、害虫、菌の発生期間が延びて、農薬の散布状況ががらりと変わった。普及センター縮小の話があるが、農家だけで対処していくのは限度があるので、地理的にも離れた南宇和郡に「室」として存続してほしい。

（知事）

県財政の建て直しのためには、地方出先機関の整理統合、人員整理をしないと、借金をこれ以上増やせない状況になっている。その中でも、普及センターは統合するが、地域に密着した農業改良普及員の仕事であるので、統合しても、農業改良普及員が週の何日かを役場ででも勤務できる体制で地元密着を続けたい。普及センターの名前が残るか残らないかということではなく、実態的に農業指導が機能しているかどうかをウェットを置きたい。ただ、南宇和郡は高速道路が整備されていないので、愛南町まで道路が整備されるまでの間は、県の地方機関の統合が一番遅くなる地域、一番出先機関を残して、がんばらなければならない地域であると県は認識している。

畜産業への理解と協力

畜産先進県の宮崎、鹿児島では、県等関係機関が一丸になって牧場後継者を引っ張っているが、愛媛では、後継者は大事にされていない印象を受けた。後継者を引っ張っていくような人材を育成してほしい。愛媛の畜産は全国的に低レベルであるので、畜産への理解と協力をお願いしたい。

（知事）

本県も農業後継者を大切にするため、様々な後継者育成事業を実施している。もし、他県と比較して施策面で遜色があるならば、改善しなければならない。他県との競争であるので、「媛っこ地鶏」のように特化してブランド化を図らないと畜産振興は難しい。具体的な提言があれば十分検討する。

教育費の確保

財政難のため、各中学校に1人いた、心の相談室の指導員が南宇和郡で1人になった。次代を担う子供を育てる教育費を大事にしてほしいが、義務教育費国庫負担金の問題で、知事の発言に賛同したのが7人で不安になった。

(知事)

教員数は算定方式に従って割り当てている。児童生徒数が減っているのに、連動して割り当ての教員数が減るのは仕方がないが、最後に手をつける大切な分野である。

義務教育費国庫負担金の廃止問題については、全国知事会で議論している時には、義務教育費に手をつけたらいかんといったのは13人の知事である。ただ最後は、三位一体改革全体として賛成せざるを得ないとして40人の知事が賛成した。教育を大切に思うかどうかを知事会の思いつきで、多数決で決める問題ではないということが、私がしゃかりきにがんばっている理由である。

環境問題への取組み

ふるさとの道づくりなどの活動を20年近くしているが、これからは環境問題に取り組むことが大事であると感じている。環境講演会などを実施しているが、なかなか広がらない。南宇和郡ではまちづくりのネットワークがない。

有害紫外線に取り組んでいるが、なかなか広がらない。昨年、環境省が紫外線保健環境マニュアルを出したが、各保育所、各学校に通達されていない。紫外線から子どもを守ろうということを県から声をあげて知らせてほしい。容器リサイクル法改正の請願書を西海町と内海村は取り上げてくれた。

愛南町が発足したら、まちづくりのネットワークを自発的につくり、他の地域とのネットワークを拡げていきたいので、指導をお願いします。

(知事)

環境に対する様々な熱心な取組みに敬意を表す。46億年の地球の歴史を1年とすると、地球の歴史の中での80年の人間の一生は、12月31日午後11時59分59.5秒に生まれて消えていく運命である。その人間が地球を破壊することは許されないのではないか。

「子孫に負の遺産を残さない」という意味でのたとえ話です。

鳥獣駆除に対する支援

生活研究協議会に所属しているが、御荘普及室は私たちにとって、信頼でき、指導してもらえる一番大切なものであるので、存続をお願いする。

過疎地である山出地区は休耕田や耕作放棄地が多い。高齢者が多く鳥獣の駆除ができないので放棄する人も多い。昔の棚田の風景もなくなってきた。鳥獣の駆除は、電気柵とか中山間で取り組まれているが、個人負担が大きいので、補助などを、地域性を考えて支援してほしい。

(知事)

鳥獣駆除に関しては、県議会においても、たびたび質疑されている問題である。

避難所の整備

台風16号で城辺僧都線が閉鎖し、1日半停電した。電気釜なのでごはんが炊けなかった高齢者もいた。町とも相談したいと思うが、避難所として自家発電のある施設を地域に一つ作ってほしい。

(知事)

県が直接対応できる話ではないが、新愛南町長に町内のすべてに目配りの利く体制づくりを期待したい。

ボランティアによる地域の盛り上がり

地域が生き生きと盛り上がる方法を考えている。田舎でも都会のように人間関係が寂しくなっているところがあり、ボランティアを呼びかけても、人手不足など、なかなか協力体制が取れない。

(知事)

愛と心のネットワークは、自分に使える時間、自分に使えるエネルギーがある時に、その余力を人のためにも使ったらどうかということである。地域の盛り上がりには、無理をしてはいけない、強制になってもいけない。余裕のある人は、余力の半分、3分の1でも地域に還元する機運が盛り上がっていくことが、地域の盛り上がりには大切である。

南宇和郡への鉄道、道路の整備

県内外から南宇和郡に来られた人から、食べ物がおいしい、自然が素晴らしい、人が優しいとかよく言われる。今、町並博で南予に大勢の人が来ており、南宇和郡にも来てほしい。そのために、鉄道、道路の整備を是非お願いする。夏は観光の目玉があるが、1年を通じてのイベントがないので、合併後にそういう専門の人材派遣を考えていただきたい。南レク施設を利用したイベントなど、南宇和郡に目を向けるムードづくりをしてほしい。

知事が貫く、義務教育費国庫負担金の問題はありがたく思う。今後とも、よろしく申し上げます。

(知事)

最重要課題は一本松まで高速道ができること。この交通ネットワークなしでは愛媛県の発展、未来はありえない。これが基本的な考え方です。時間はかかるが、県内すべての地域の人が、同じではないが、ほぼ近い条件で、経済、文化、様々な形での交流ができる基盤が最低必要だという認識である。落ち込みがちなこの愛南町エリアは、県として最も目配りしなければならない地域であるとの認識をもっている。

森林整備事業の継続と国有林事業との連携

森林整備に関する県単独事業を継続してお願いする。森林環境税の説明会で、民有林の整備、ボランティアの活動は聞いたが、国有林の話あまり聞かない。南宇和地区は大久保山ダムと惣川ダムがある。平成6年の渇水期には両ダムとも渇水した。惣川ダムは、当時の一本松町長が町有林の整備に力を入れたことに併せて県有林も整備されたので、それ以来常時満水に近い状態である。大久保山ダムは、国有林がほとんどの水域を占めているが、国有林の整備が遅れている。国有林との連携を進めてほしい。

(知事)

森林環境税は、山につぎ込んでいる経費の何%にもならない金額であるが、県民全体が森林環境税を負担することで、山は愛媛県の財産であって国土保全の見地から一番大切なものであるという参加意識を持つことに主眼を置いた制度である。

国有林の整備状況は詳しくわからないが、四国森林管理局が11月11日を「四国山の日」と提唱し、4県知事もものっている。各県が進めることについて、国有林も連携をとっていければいいと思う。予算、間伐の状況など確認したい。

[対応]

造林補助事業や新たな森林管理推進事業(放置林対策)において、県単独の任意継足助成を行っている。これらの事業は今後も継続して実施するので、当該事業の積極的な活用をお願いする。

国有林事業については、平成16年度に大久保ダム周辺で264ha(83,240千円)の除間伐を、県内全体で734ha(181,520千円)を実施している。

県民参加の森林づくりを推進し、適正な森林の育成を目指すため、国有林からのフィールド提供を受けるなど、地域と一体となった森林整備を実施することとしている。

河川の浄化

河川の汚れは、生活排水が一番である。一本松町では、農業集落排水事業に取り組むなど、周辺部で徐々に生活環境の整備に取り組んでいる。合併後市街地になる御荘、城辺の下水道事業に指導援助してほしい。

(知事)

農業集落排水は大切なことであるが、一定の集落エリアがないといけない。今、下水道と農業集落排水と合併処理浄化槽の3点セットのどれでもいいから早く進めてくれとお願いしている。しかし、農山地域の場合は合併処理浄化槽といっても個人負担が相当あり金額的に大変である。地域で自分たちの生活雑排水が如何に環境を悪くしているかという認識がもっともっと浸透すればと思う。

由良半島の県道整備

由良半島の県道(網代・鳥越線)整備を早く進めてほしい。予算化されているので必ず実現されるものと期待している。
僻地であっても、心豊かに安心して暮らせるような地域にしてほしい。

(知事)

総論的に言うと、県財政で、地方交付税も切り込まれており、一番切り易いのが県単独の道路事業である。これまで愛媛県は他県に比べて道路整備に力を入れてきた。正直、財源確保は、県単独事業の切り込みと、地方機関の整理統合により人件費を削減するしかない。

減額した道路予算の中で地域の様々な要素で順番付けをしていくが、県内の道路整備の中で由良半島の県道整備は最優先ではないと思う。局所的な改修で、対応していく時代かなと思う。

海岸への漂着ゴミの処理

西海町は台風のためにゴミが海岸（船越漁港）に打ち上げられ、回収が大変である。海にある状態でごみを取れないか。

町に双胴船で流木を集めることを要望しているが実現していない。高知県からの流木で被害を受けている。回収船で対応してほしい。

（知事）

流木、ゴミは高知県から流れてきたものであっても、漂着した港の管理者の責任になる。このシステムには、問題があると思うが、手が見つからない。

検討した結果を連絡する。

[対応]

船越漁港は、愛南町が管理しており、海岸に漂着したゴミについては、一般廃棄物としてそれぞれの区域を管轄する管理者が対応している。

海面に浮遊するゴミや油については、昭和 52 年度から国が松山港に配備している「いしづち」に回収を依頼しているが、波高や船の構造等の関係で、作業海域が香川県の県境から佐田岬までであることから、宇和海における対応が難しいのが現状である。

今後とも作業海域の拡大を国に要望する。

また、台風等の突発的な豪雨で河川から流出した葦や流木が漁場としての価値が高い磯根漁場や、沿岸の共同漁業権区域内の養殖漁場にたまって、漁場としての機能が著しく損なわれたときには、県の補助事業である「河川流出物等回収除去事業」を活用して回収処分し、漁場機能の回復と漁場環境の保全を図ることとしている。

なお、この事業は、自然に流入した 300 立方メートル以上の流木等が対象となり、実施主体は市町である。

西海有料道路の料金値下げ

平成 16 年 10 月から西海有料道路の料金が 100 円になると聞いた。ありがたい。

(知事)

西海町長から強い要望があり、検討している。今治・越智 12 カ町村の合併によるしまなみ海道の橋の料金値下げの話との兼ね合いもある。金額は期待通りに 100 円まで下げられるかどうかは難しい状況であるが、町が継ぎ足しすれば不可能ではない。いずれにしても 420 円の半分の 210 円より下げる方向で対応したい。

商工会の事務体制の充実

町村合併に伴い商工会も合併することになる。商工会組織が弱体化しており、商工会事務局には、引き続き商店の活動を支援してほしい。商工会事務体制の充実のために、人員が減らされないようお願いしたい。

(知事)

合併した商工会の適正配置が前提であるが、合併後も現在の職員の雇用を継続することで商工会合併を促進している。

ボランティア団体への資金に対する税額控除

ボランティア活動に対してお金は出せる人はいる。寄付金として県税、町税が控除できれば、ボランティア団体に資金が集まると思う。

(知事)

ユニークな提案である。一般的に、愛南町に寄付すれば、税額控除になる。町がボランティアのために支出するには、予算を組む必要がある。工夫が必要であるが不可能なことではない。

ボランティア活動情報の提供

御荘町の小学校、保育園、その他の施設の安全面は配慮され、整っているが、都市部に比べて、親子の交流の場、地域を知る機会が少ない。これまで、そういう活動をしている団体やグループに依存していたので、いろいろな話をきいて、自分も参加していくきっかけになった。活動状況などの情報は一般にも届くようにしてほしい。

(知事)

情報提供の話は、地方局でフォローさせる。

「こんにちは！知事です」への町職員の出席

知事が来られて、町民の意見を聴いてくれているが、町に関する知事へのお願いが多い。傍聴席には町の職員も来ているが、できれば町職員が正式に出席して、町民の生の意見を聴くことが必要だと思う。

(知事)

県に対するご意見を伺うための会である。町が対応する内容の話が多かったが、町長が出席し、知事がこうすべきと発言すれば、町は引っ込みがつかなくなる。そういうことで、メンバーにはなっていないが、ご意見があったので、どちらがいいのか、もう一度考え直してみる。

[対応]

「こんにちは！知事です」は、県へのご意見を伺う会合であるため、市町職員に出席を依頼しないが、これまでも、市町職員が傍聴しており、今後も市町に対し、傍聴を要請する。

なお、市町に関するご意見については、関係部または地方局から関係市町に連絡している。